

# 学園点描

21日に火事を想定した避難訓練をしました。児童生徒全員が避難するまで4分14秒でした。

《H学園》

NO.3

R7. 4. 23

担当：校長

朝あいさつ運動を終えて玄関に入ると、女子生徒がわたしにメモを渡してくれました。校長室に入って読んでみると『校歌にこんなエピソードがあったと知って、おどろき、感動しました。これからも良い伴奏ができるようにがんばります』と書いてあります。このたよりのNO.1の内容の感想でした。これまで保護者や地域の方々からたよりの感想をもらうことはありましたが、生徒からもらうのは初めてでした。たよりを読んで感想を伝えてくれた姿に、心が動かされます。そして、そのまっすぐな思いに、人としての成長を感じます。

## 先生の涙

放課後、誰もいない各学年の教室を見て回ります。2年生の教室の壁には、今年  
の目標が「学しゅう」「ともだち」「けんこう」の項目に  
したがって、子どもたちが書いています。「ともだち」の  
項目に注目すると、Y・Sさんは「ともだちといっしょに  
あそぶ。いろいろな人をさそってあそぶ」と書いていまし  
た。K・Yさんは「ともだちにまぜてといわれたらまぜてあ  
げる」、またK・Sさんは「いつもあそんでいるともだちだけでなく、ちがうとも  
だちともあそぶ」と書いていました。読んでいると、子どもたちが「誰かとつなが  
ること」を大切に思っている気持ちが、じんわりと伝わってきます。



学校にはいろんな子がいます。ニコっと笑いかける子と、困っている子に声をかけ  
る子と、話を最後まで聞いてあげる子・・・「ともだち」のかたちは一人ひとり  
の子どもの特徴によって変わっていきます。

今から9年前、小学校時代の友人から手紙がきた話です。実は、その友人は、  
病気で足が不自由なため車椅子で学校生活を送っていました。手紙には、草野球で  
遊んだ話が懐かしそうに書いてありました。

小学時代のわたしは、学校から帰ると玄関にかばんをぶん投げて、再び学校へ  
まっしぐらです。毎日、学校のグラウンドで草野球をするのが日課でした。勝敗が決

まらず熱戦になると、暗くなって球が見えなくなっても続けてしまいます。そうになった翌日は、必ず先生から罰として職員室前廊下に呼び出されてのお説教でした。

そんな少年時代でした。

車椅子の友人と同じ学級になったのは3か4年生だったと思います。担任の先生



は車椅子の彼のため、体を動かす“以外“の遊びをするように、草野球好きのわたし達に話をするのです。車椅子ということだけで、いじめられることもあったと言っていました。先生は、誰もが等しく遊ぶ“機会の平等”を望んだのでした。彼との出会いは「平等」と「公平」の違いを初めて

考えたきっかけだったかもしれません。

けれど野球好きのわたし達を止めることはできません。その日も、大熱戦で夜空に星が輝く中、グラウンドで野球を続けていました。そうしたら、私たちのもとに、血相を変えた顔つきで担任の先生が校舎からやってきたのです。「ああやばい。怒鳴られるな」と思ったその時です。なんと先生は、私たちの野球風景を見て、黙って帰っていったんです。後で、聞いたのですが、先生にとって、その光景はショックだったと言っていました。なぜかって、わたし達は、車椅子の彼も交えて、野球をしていたのです。ルールは、彼が車椅子のまま打席に入り、ボールを打ったら、別の子供が代りになって走る、ただそれだけだったんですが…

案の定、次の日は、夜遅くまで遊んでいたということで、彼も含めて職員室前廊下に全員集合です。

いつもと違っていたのは、先生が、泣きながら叱っていたことです。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

[Shinyatk1616n@yahoo.co.jp](mailto:Shinyatk1616n@yahoo.co.jp)